

2025年基準 消費者物価指数（大津市） 2026年（令和8年）7月分

（令和8年8月21日公表）

消費者物価指数は今月公表の数値より 2025年基準指数に改定されました。

この資料は、総務省統計局が作成、公表している消費者物価指数のうち、大津市の消費者物価指数についてまとめたものです。

消費者物価指数は、今月公表の数値より、2020年基準指数から2025年基準指数に改定されました。

基準改定の概要

1 基準改定の趣旨

消費者物価指数は、家計の消費構造を一定のものに固定し、これに要する費用がどれだけ変化したかによって物価の変動を表しています。しかし、消費構造は、新たな財およびサービスの出現や嗜好の変化などによって変化するため、消費構造を長い期間固定すると次第に実態と合わなくなってしまう。そのため、基準時などを一定の周期で新しくする「基準改定」が行われ、指数の計算に採用する品目とそのウエイト（家計の消費支出金額に占めるその商品の割合に応じてつけられる重み）が定期的に見直されます。

消費者物価指数の基準改定は昭和30年（1955年）基準への改定以降、5年に1回、西暦年の末尾が0または5の年に合わせて行われています。

2025年以降の指数は、2025年基準で再計算されています。

2025年基準以前の指数は、時系列比較が可能となるように、2025年を100とする新基準指数への接続指数という形で表されています。

2 主な改定内容

(1) 指数基準時の改定

指数の基準時およびウエイトの参照年次が、それぞれ2020年から2025年（ウエイトについては2024年および2025年基準）に改められました。

(2) 品目の改定

指数に採用する品目について、家計消費支出における重要度が高くなった品目が追加され、重要度が低くなった品目が廃止・統合されました。

この結果、2025年基準指数に用いる品目数は、589品目となりました。

追 加： 19品目（塩さば、グミ、ヘアドライヤー など）
廃 止： 11品目（煮干し、ビデオソフトレンタル料 など）
統 合： 2→1品目
名 称 変 更： 43品目

(3) ウエイトの改定

2025年基準の消費者物価指数の計算に用いるウエイトは、更新する指数の基準年次と同じ2025年の家計調査結果等を用いて作成しています。ただし、生鮮食品（生鮮魚介、生鮮野菜、生鮮果物）は、品目ごとに月々の購入数量の変化が大きいため、家計調査による2025年の品目別消費支出金額のほか、2024年および2025年の月別購入数量を用いて月別に品目別ウエイト（生鮮魚介、生鮮野菜、生鮮果物の類ウエイトについては毎月一定）が作成されています。

(4) モデル式を用いる品目の指数計算方法の見直し

「電気代」、「通信料（携帯電話）」など一部の品目は、料金体系が多様で価格も購入条件により異なっているため、品目ごとに典型的な利用事例をモデルケースとするなどにより設定した計算式（モデル式）を用いて、月々の価格指数が算出されています。

2025年基準改定では、モデル式の精度の維持向上に必要な改定を行うほか、モデル式を用いる品目（モデル品目）の統合、追加等が行われました。

2025年基準においてこれらのモデル品目は、78品目となっています。（追加は6品目）

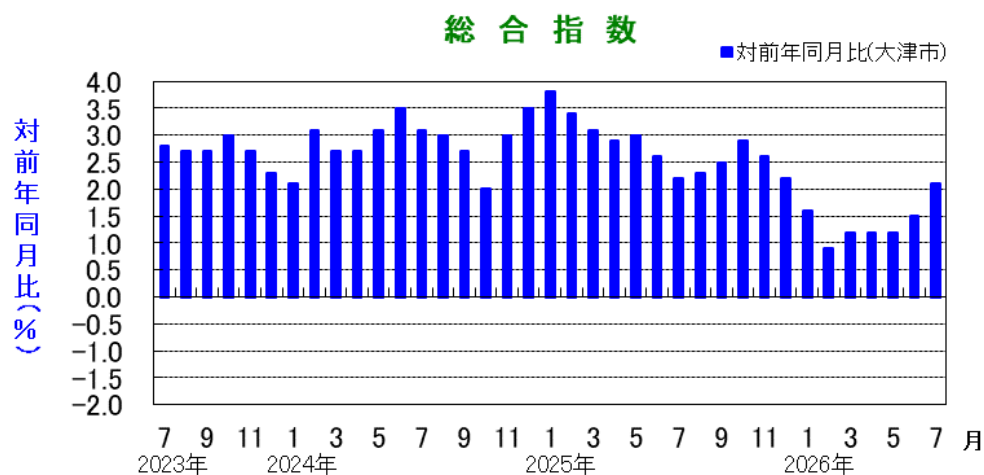
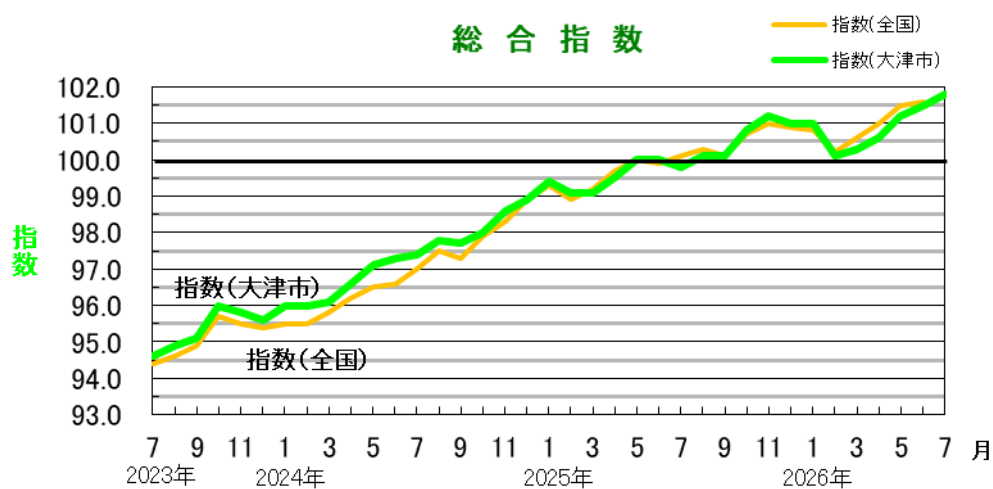
☆今回の改定に関する情報につきましては、総務省統計局のHPをご覧ください。

消費者物価指数（CPI）→ <https://www.stat.go.jp/>

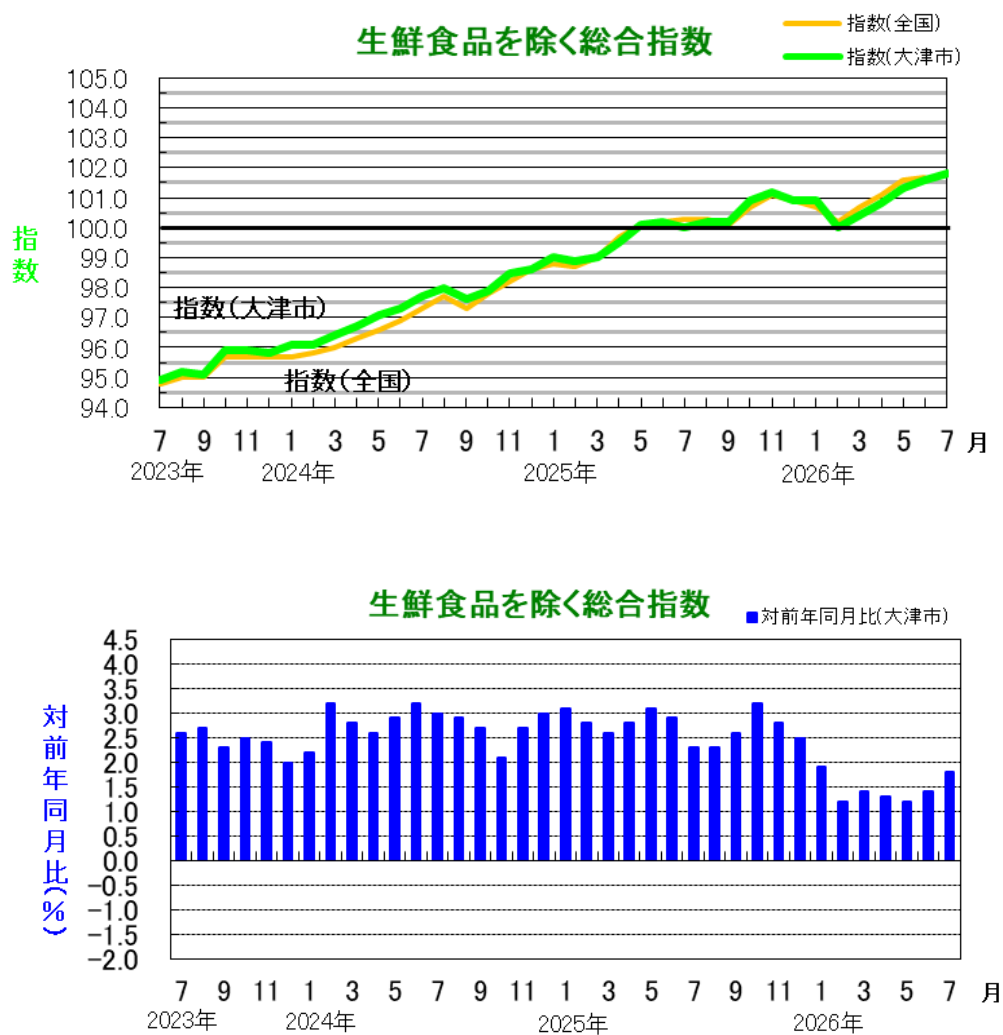
1. 2026年（令和8年）7月分消費者物価指数（大津市）概況

	指 数	前月比(%)	前年同月比(%)	概 況
総合指数	101.8	0.3	2.1	前月比は5か月連続で上昇した。 前年同月比は57か月連続で上昇した。
生鮮食品を除く 総合指数	101.8	0.2	1.8	前月比は5か月連続で上昇した。 前年同月比は57か月連続で上昇した。
生鮮食品及び エネルギーを除く 総合指数	101.8	0.2	2.0	前月比は3か月連続で上昇した。 前年同月比は52か月連続で上昇した。

2. 総合指数と対前年同月比の推移

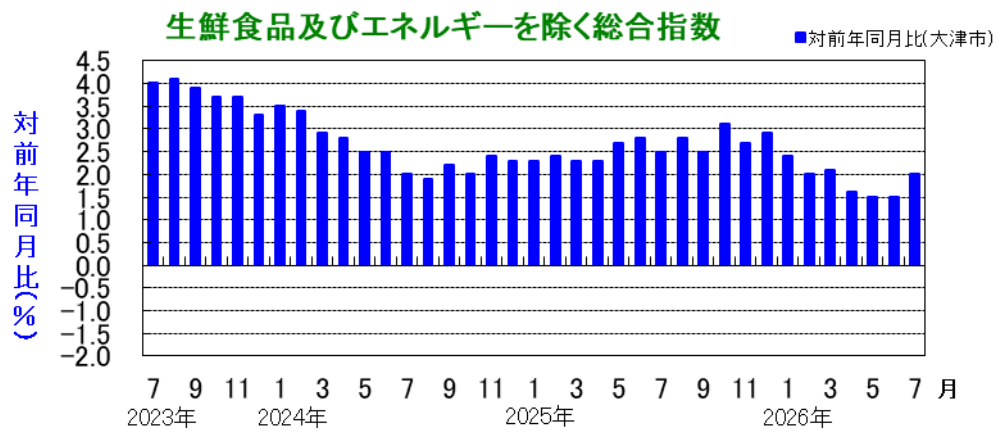
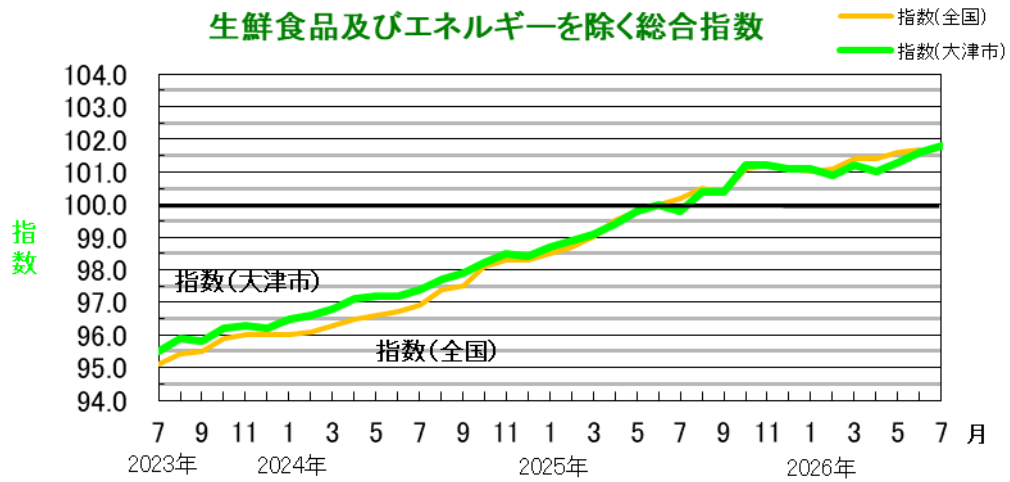


3. 生鮮食品を除く総合指数と対前年同月比の推移



※「生鮮食品」…生鮮魚介・生鮮野菜・生鮮果物

4. 生鮮食品及びエネルギーを除く総合指数と対前年同月比の推移



※「エネルギー」…電気代、都市ガス代、プロパンガス、灯油、ガソリン

☆全国における消費者物価指数の概況は総務省統計局のHPにより公表されています。
総務省統計局消費者物価指数（全国）→ <https://www.stat.go.jp/data/cpi/>

5. 10大費目指数と前月・前年同月比および寄与度

2025年=100

区 分	指 数	対前月		対前年同月	
		上昇率(%)	寄与度	上昇率(%)	寄与度
食 料	103.6	0.3	0.08	5.2	1.37
住 居	100.5	0.0	0.00	0.5	0.11
光 熱 ・ 水 道	102.8	0.2	0.01	0.2	0.01
家具・家事用品	102.1	0.7	0.02	0.3	0.01
被服及び履物	98.6	-1.7	-0.06	-1.1	-0.04
保 健 医 療	102.7	0.5	0.02	2.7	0.13
交 通 ・ 通 信	103.5	0.3	0.05	3.7	0.55
教 育	88.9	0.0	0.00	-10.7	-0.39
教 養 娛 楽	101.4	1.6	0.14	1.5	0.14
諸 雑 費	103.3	1.3	0.07	3.4	0.20

*寄与度：総合指数の上昇に対して各費目がどれだけ影響したかを示します。

6. 前月との比較

総合指数は101.8で、前月と比べて0.3%上昇しました。中分類指数の主な項目をみると、生鮮野菜（9.6%）、教養娯楽用品（3.1%）等が上昇し、肉類（-2.9%）等が下落しました。

生鮮食品を除く総合指数は101.8で、前月と比べて0.2%上昇しました。

生鮮食品及びエネルギーを除く総合指数は101.8で、前月と比べて0.2%上昇しました。

● 上昇した中分類指数の主な項目（寄与度順）

生鮮野菜〔食料〕	(+)	9.6%
教養娯楽用品〔教養娯楽〕	(+)	3.1%
菓子類〔食料〕	(+)	2.0%
教養娯楽サービス〔食料〕	(+)	1.1%

● 下落した中分類指数の主な項目（寄与度順）

肉類〔食料〕	(-)	2.9%
--------	-----	------

注) 中分類指数の項目のうち、寄与度および各指数の対前月比が比較的大きな項目のみを掲載しています。〔 〕内は、10大費目名です。

注) 生鮮食品（生鮮魚介・生鮮野菜・生鮮果物）については、小分類指数です。

7. 前年同月との比較

総合指数は、前年同月と比べて2.1%上昇しました。中分類指数の主な項目をみると、自動車等関係費（3.2%）、肉類（10.7%）等が上昇し、授業料等（-14.4%）等が下落しました。

生鮮食品を除く総合指数は、前年同月と比べて1.8%上昇しました。

生鮮食品及びエネルギーを除く総合指数は、前年同月と比べて2.0%上昇しました。

● 上昇した中分類指数の主な項目（寄与度順）

自動車等関係費〔交通・通信〕	(+)	3.2%
肉類〔食料〕	(+)	10.4%
菓子類〔食料〕	(+)	8.1%
調理食品〔食料〕	(+)	4.8%
通信〔交通・通信〕	(+)	3.6%
生鮮果物〔食料〕	(+)	13.3%
生鮮魚介〔食料〕	(+)	12.8%
生鮮野菜〔食料〕	(+)	6.7%
交通〔交通・通信〕	(+)	5.7%
理美容用品〔諸雑費〕	(+)	6.7%
飲料〔食料〕	(+)	6.4%
医薬品・健康保持用摂取品〔保健医療〕	(+)	6.3%
教養娯楽用品〔教養娯楽〕	(+)	3.2%

● 下落した中分類指数の主な項目（寄与度順）

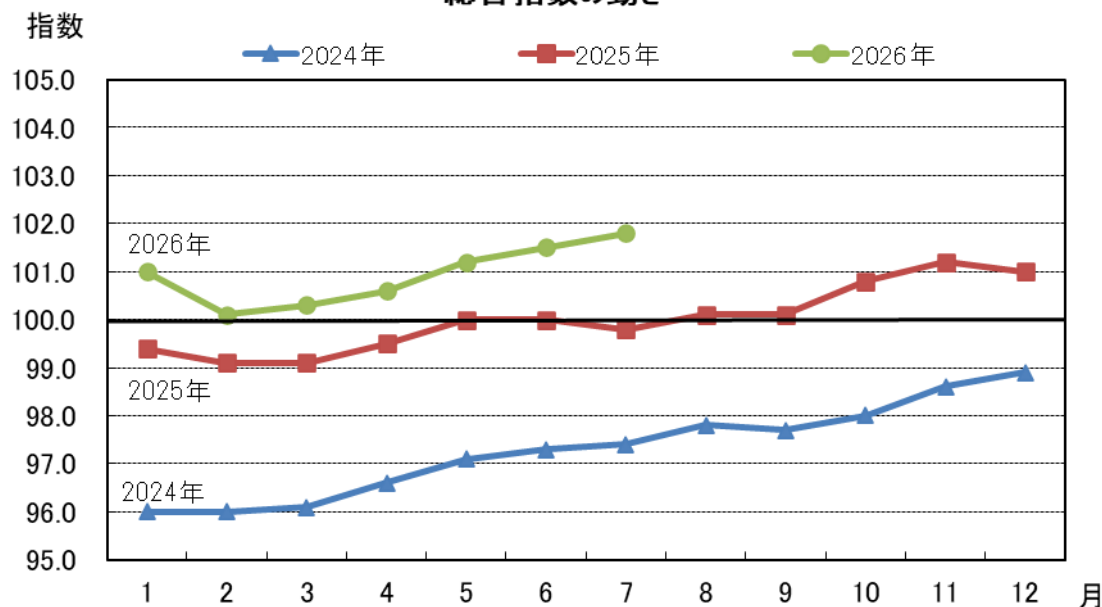
授業料等〔教育〕	(-)	14.4%
----------	-----	-------

注) 中分類指数の項目のうち、寄与度および各指数の対前年同月比が比較的大きな項目のみを掲載しています。[] 内は、10大費目名です。

注) 生鮮食品（生鮮魚介・生鮮野菜・生鮮果物）については、小分類指数です。

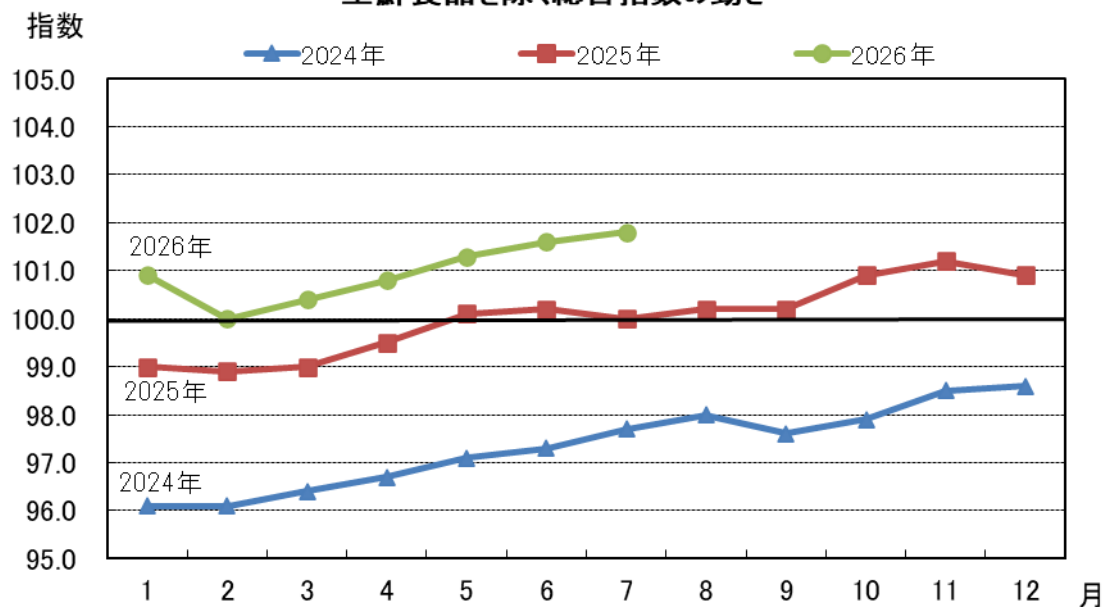
8. 総合指数別の年度比較

総合指数の動き



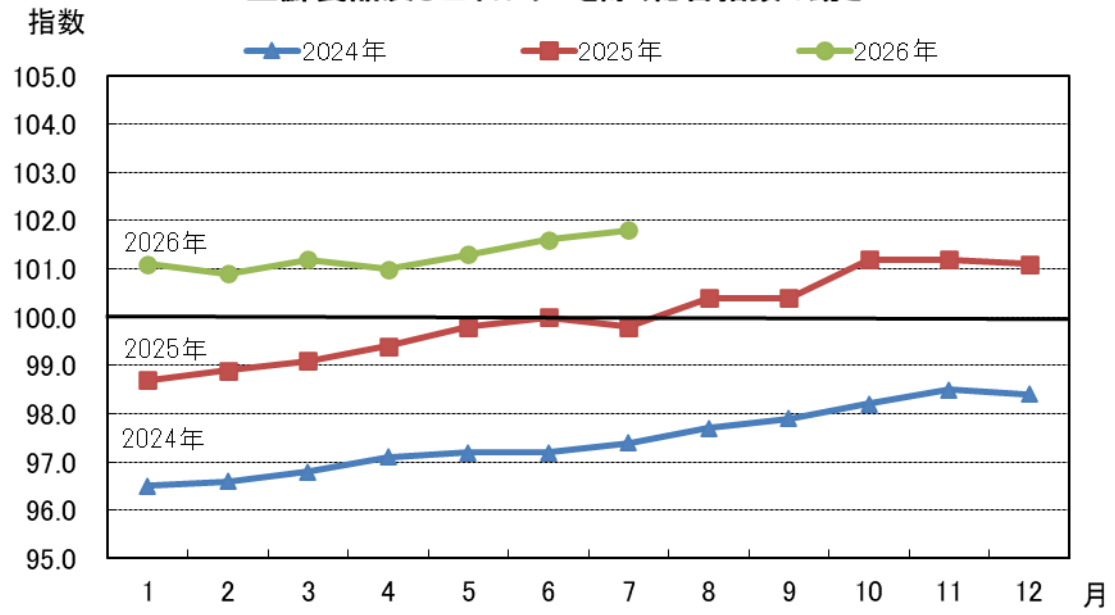
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
2024年	96.0	96.0	96.1	96.6	97.1	97.3	97.4	97.8	97.7	98.0	98.6	98.9
2025年	99.4	99.1	99.1	99.5	100.0	100.0	99.8	100.1	100.1	100.8	101.2	101.0
2026年	101.0	100.1	100.3	100.6	101.2	101.5	101.8					

生鮮食品を除く総合指数の動き



	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
2024年	96.1	96.1	96.4	96.7	97.1	97.3	97.7	98.0	97.6	97.9	98.5	98.6
2025年	99.0	98.9	99.0	99.5	100.1	100.2	100.0	100.2	100.2	100.9	101.2	100.9
2026年	100.9	100.0	100.4	100.8	101.3	101.6	101.8					

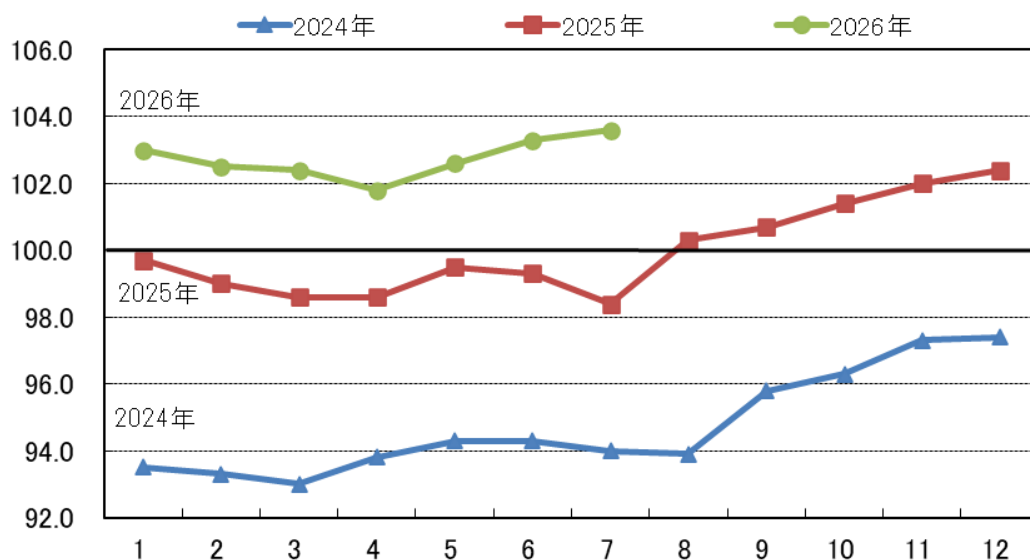
生鮮食品及びエネルギーを除く総合指数の動き



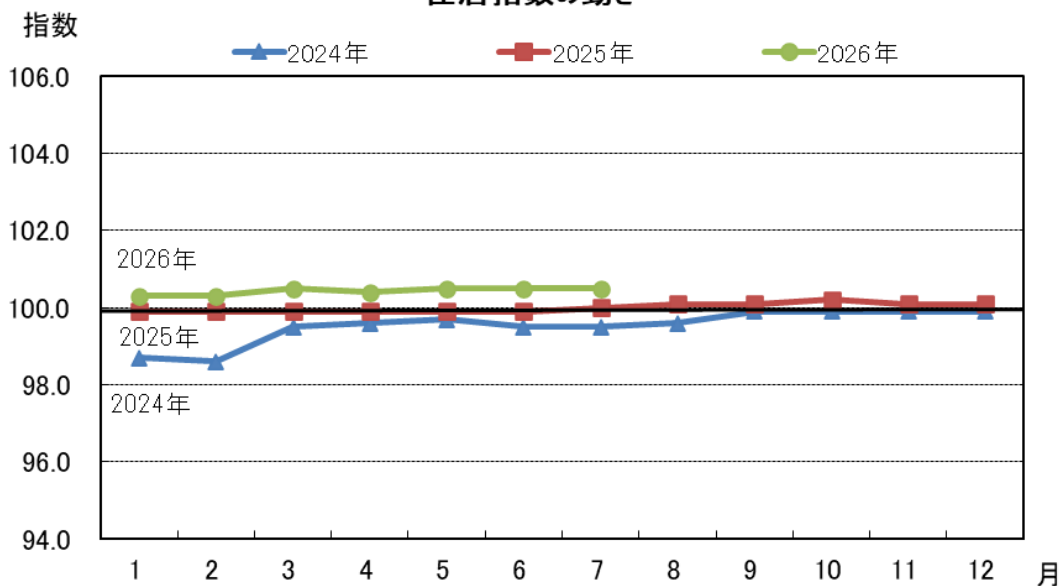
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
2024年	96.5	96.6	96.8	97.1	97.2	97.2	97.4	97.7	97.9	98.2	98.5	98.4
2025年	98.7	98.9	99.1	99.4	99.8	100.0	99.8	100.4	100.4	101.2	101.2	101.1
2026年	101.1	100.9	101.2	101.0	101.3	101.6	101.8					

9. 10大費目別の年度比較

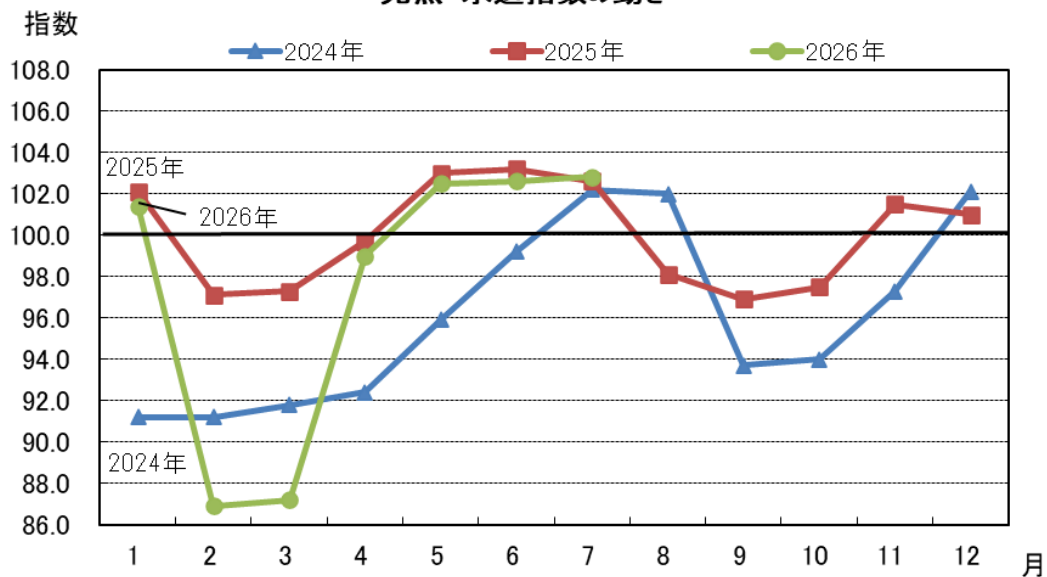
食料指数の動き



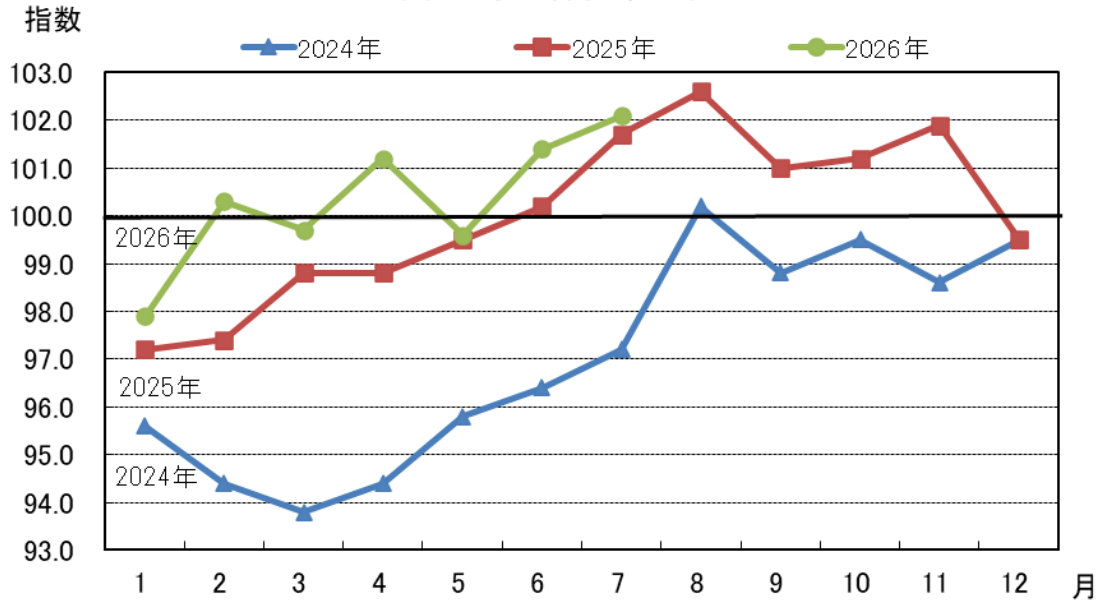
住居指数の動き



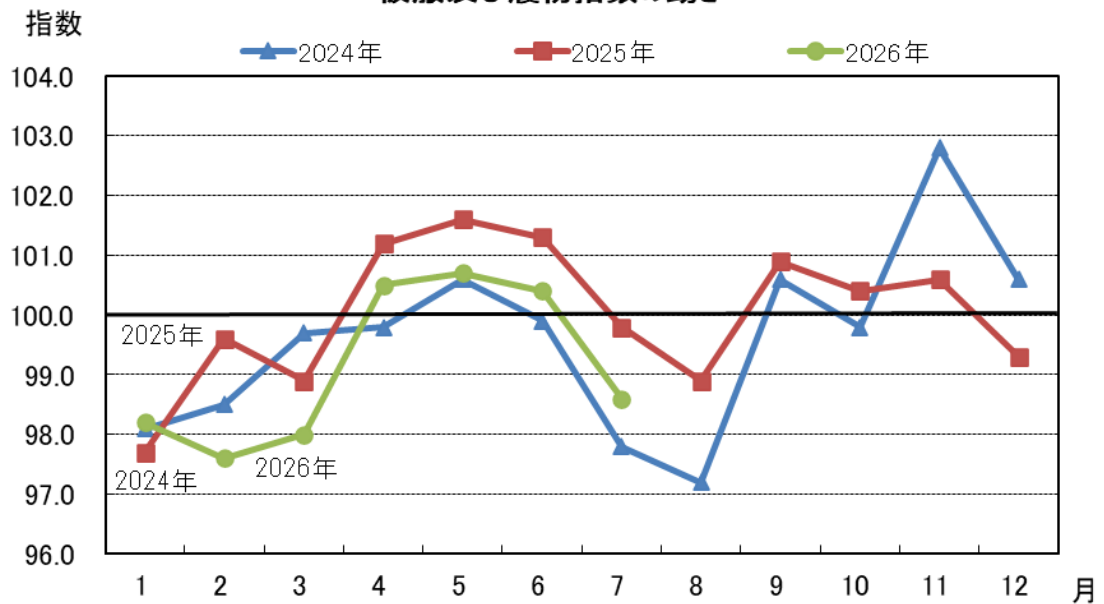
光熱・水道指数の動き



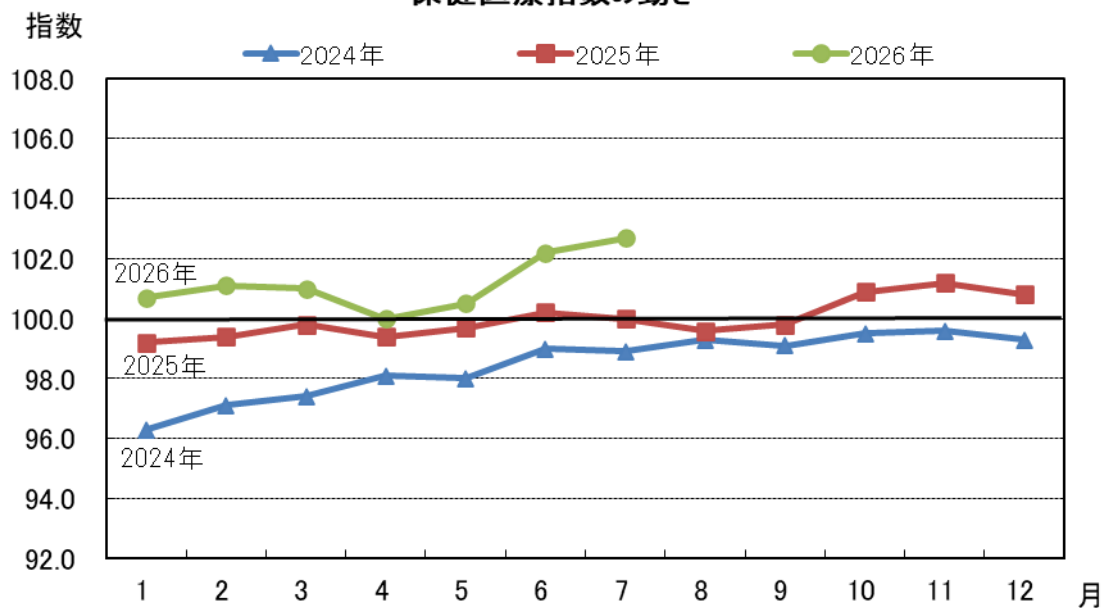
家具・家事用品指数の動き



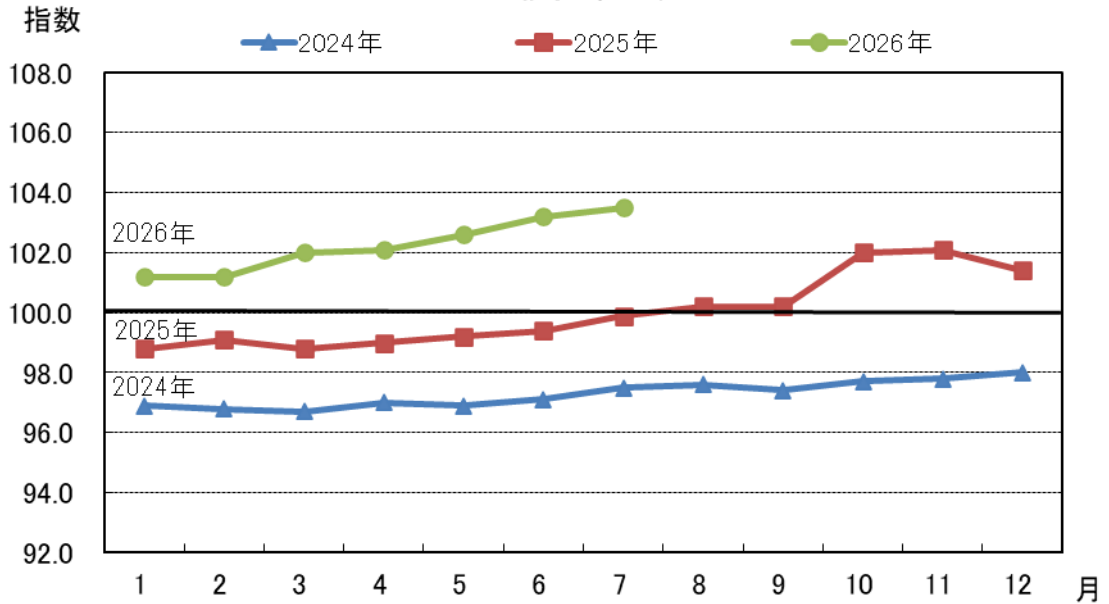
被服及び履物指数の動き



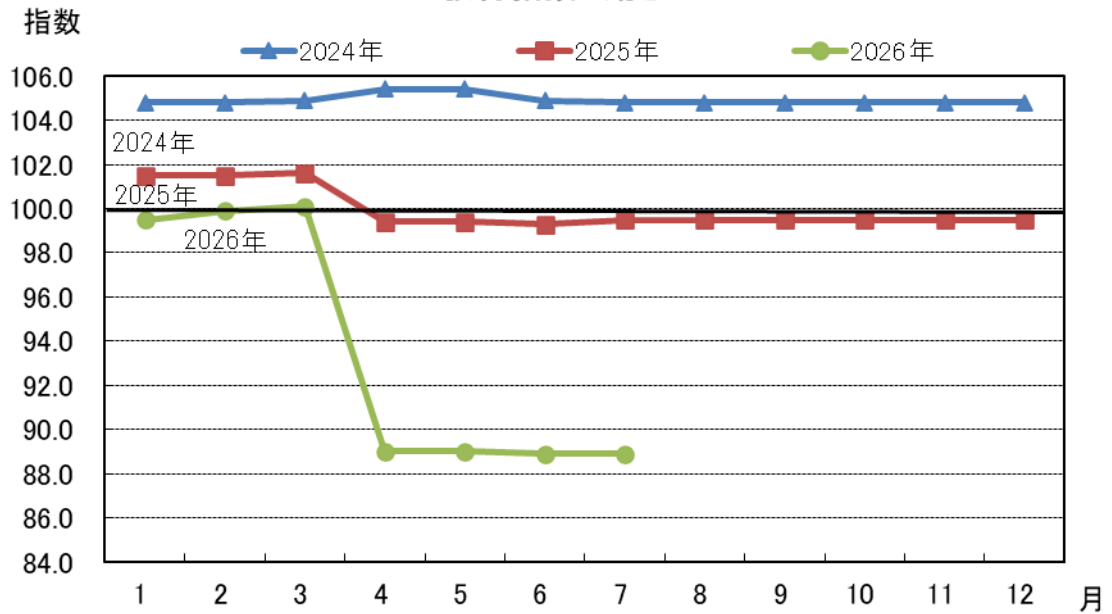
保健医療指数の動き



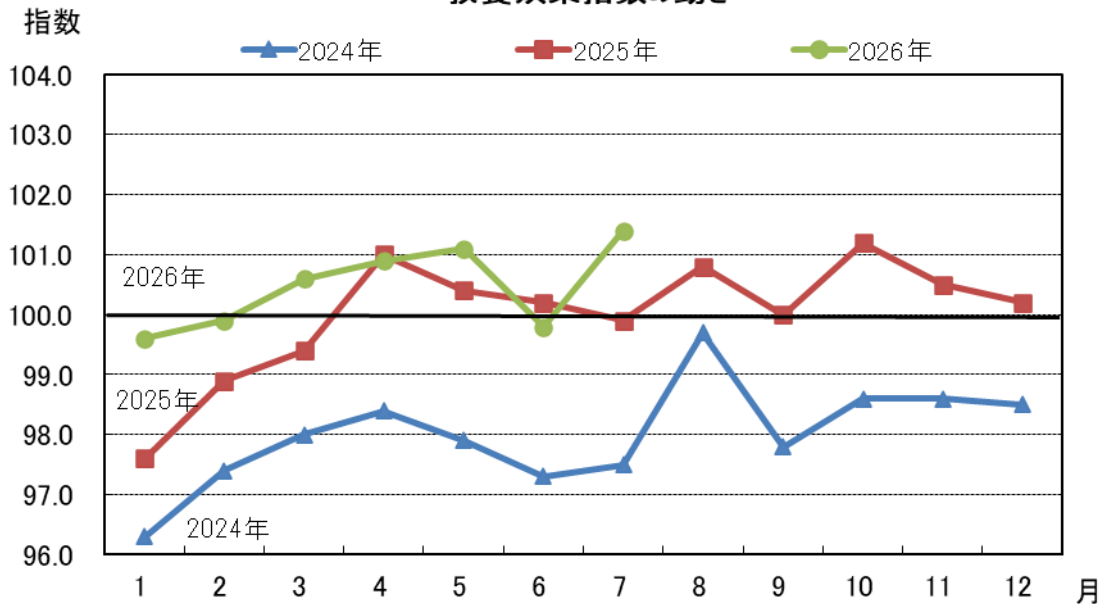
交通・通信指数の動き



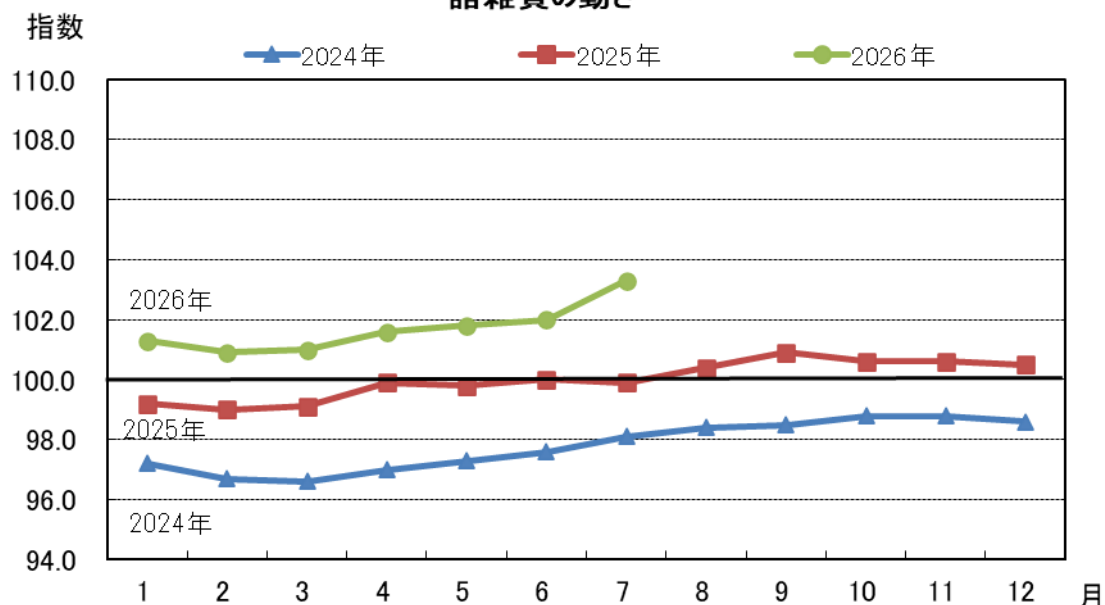
教育指数の動き



教養娯楽指数の動き



諸雑費の動き



【参考】

消費者物価指数とは

消費者物価指数は、日常生活で私たち消費者が購入する各種商品（財やサービス）の価格の動きを総合し、平均的な物価の動きをみるために作られるもので、国民の消費生活にとって最も身近な指数です。日常購入する食料品、衣料品、電気製品、医薬・化粧品などの財の価格のほかに、授業料や家賃、理髪料、バス代などのようなサービスの価格の動きも含まれます。

10大費目とは

指数計算に採用する品目は、世帯が購入する多数の財・サービス全体の物価変動を代表できるように、家計の消費支出の中で重要度が高いこと、価格変動の面で代表性があること、さらに、継続調査が可能であること等の観点から選定された588品目に、持家の帰属家賃1品目を加えた589品目です。これらを大分類したものが10大費目です。

この資料は総務省統計局が作成、公表している全国の消費者物価指数のうち、大津市の消費者物価指数についてまとめたものです。

【次回資料提供予定】 令和8年(2026年)9月18日(金) 午前10時